別添資料2

潜在候補地リスト

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
1	3	声問川（コエトイ）	北海道稚内市（ワッカナイ）													●															＜基準2＞ ・イトウの生息地	
2	4	猿払原野（サルフツ）（モケウニ沼、カムイト沼、瓢箪（ヒョウタン）沼、ポロ沼、猿骨（サルコツ）沼、猿払（サルフツ）川など）	北海道宗谷郡猿払（サルフツ）村	●												●		●													＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する湿原（日本では数少ない気候性泥炭地） ＜基準2＞ ・イトウの生息地 ＜基準3＞ ・北方針葉樹林が周辺に広がる腐植栄養湖沼の水生植物相の典型（ナガバエビモ、ヒロハノエビモ、コウホネなど）	・「腐植栄養湖沼」とは、腐植質が多く、植物の量や種類が少ない湖沼
3	7	天塩川下流域	北海道天塩郡天塩町・幌延（ホロノベ）町、中川郡中川町													●											●				＜基準2＞ ・イトウの生息地 ＜基準6＞ ・亜種オオヒシクイの1%基準クリア（振老旧川　※天塩町に所在）	・かつてのチョウザメの遡上河川 ・阿部志内川合流点より下流
4	9	コムケ湖	北海道紋別（モンベツ）市											●													●				＜基準2＞ ・ヘラシギの0.1%基準クリア（コムケ湖） ＜基準6＞ ・オオハクチョウの1%基準クリア（コムケ湖）	
5	11	サロマ湖	北海道北見市、常呂（トコロ）郡佐呂間（サロマ）町、紋別（モンベツ）郡湧別（ユウベツ）町			●		●			●	●								●					●						＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する塩性湿地 ・生物地理区（オホーツク海）を代表する湖沼、干潟、藻場 ＜基準3＞ ・日本最大の潟湖性海草藻場。広大なアマモ群落 ・貝類のエゾタマキビ、キタノオオノガイなど寒流系の底生生物が生息する他、重要な漁業資源であるホッカイエビ（甲殻類）が海草藻場に多数生息する	
6	12	能取（ノトロ）湖	北海道網走（アバシリ）市			●		●			●									●					●						＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する塩性湿地 ・生物地理区（オホーツク海）を代表する湖沼、干潟 ＜基準3＞ ・スゲアマモの広大な海草藻場で、スゲアマモの単純群落では国内最大、その他、アマモ、コアマモの群落がある ・底生生物相が豊富であり、貝類のエゾタマキビ、オオノガイ、ソトオリガイが多産する他、多毛類（ゴカイの仲間）の多様性が高い	
7	13	網走（アバシリ）湖	北海道網走（アバシリ）市、網走郡大空（オオゾラ）町			●																									＜基準1＞ ・生物地理区（オホーツク海）を代表する湖沼	
8	17	知床（シレトコ）半島東部沿岸	北海道目梨（メナシ）郡羅臼（ラウス）町									●						●													＜基準1＞ ・生物地理区（親潮）を代表する藻場 ＜基準3＞ ・希少種であるアツバスジコンブとカラフトトロロコンブが生育し、海藻類の種の多様性が高い	・コンブ、その他海藻は暖寒両系から成り、生態的景観に優れる
9	23	風蓮（フウレン）川及び周辺湿原	北海道根室（ネムロ）市、野付（ノツケ）郡別海（ベッカイ）町、厚岸（アッケシ）郡浜中町											●													●				＜基準2＞ ・タンチョウの1%基準クリア（風蓮川） ＜基準6＞ ・タンチョウの1%基準クリア（風蓮川）	
10	20	茨散（バラサントー）沼・兼金（カネキントー）沼・西別（ニシベツ）川（ガワ）湿原	北海道野付（ノツケ）郡別海（ベッカイ）町	●																											＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する湿原	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1										基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
11	21	根室湿原群 （根室半島湿原、ホロニタイ・フレシマ湿原、タンネ沼・オンネ沼、南部沼、長節沼、落石岬湿原、落石西湿原、落石湿原、ヒキウス沼、沖根辺沼）	北海道根室市	●														●														＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する湿原（日本では数少ない気候性泥炭地） ＜基準3＞ ・ネムロコウホネ、沈水性ヒルムシロ属など水草の種の多様性が高く、北海道本来の湖沼の水生植物相（ネムロコウホネ、エゾヒルムシロ、スギナモ、オオタヌキモ、ナガバエビモなど）が残る。特に南部沼が良好 ・原野の原風景の中に沼が点在しており、北海道の中でも重要な植物が多数残っている	
12	22	根室湾干潟及び温根沼	北海道根室市								●														●							＜基準1＞ ・生物地理区（親潮）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・キタイソメ（多毛類）、キタユムシ（ユムシ類）、アナジャコ（甲殻類）が豊富に見られ、底生生物の多様性が高い。また、潮間帯にウバガイ（貝類）が多産する	
13	28	厚岸湾	北海道厚岸郡厚岸町、釧路郡釧路町									●							●	●												＜基準1＞ ・生物地理区（親潮）を代表する藻場 ＜基準3＞ ・海藻藻場の種の多様性、規模ともに生物地理区で最大。海洋条件の異なる場所に応じた各種コンブ目が豊富に生育。寒流系コンブ類の多様性が見られる典型的海域 ・大黒島、小島（外海域）アイニンカップ岬の周辺海域およびアイカップ岬の沿岸域は国内最大のオオアマモの単純群落が見られる唯一の場所で、スガモ、アマモも生育する海草藻場	・海草藻場は、生態的景観に優れる ・厚岸湖と生態系が連続的につながる
14	34	十勝海岸湖沼群 （十勝川河口湿原、長節沼、湧洞沼、キモントウ、生花苗沼、当縁湿原、ホロカヤントウ沼など）	北海道中川郡豊頃町、広尾郡大樹町	●										●				●										●				＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する湿原 ＜基準2＞ ・タンチョウの1%基準クリア（十勝海岸湖沼群） ＜基準3＞ ・河口域に隣接する湖沼群は自然性が高く、多様な塩分濃度の汽水域と、それに対応して多様な植物相（ヒロハノエビモ、キタミソウ、コアマモなど）が存在する ＜基準6＞ ・タンチョウの1%基準クリア（十勝海岸湖沼群） ・マガンの1%基準クリア（生花苗沼）	
15	35	十勝川下流域湖沼群 （十勝川流域、十勝川水系河跡湖群、三日月沼、育素多沼、池田キモントウなど）	北海道中川郡豊頃町、十勝郡浦幌町、中川郡池田町											●				●										●				＜基準2＞ ・タンチョウの1%基準クリア（十勝川下流域湖沼群） ＜基準3＞ ・河跡湖が多数残り、水生植物の種の多様性が高い（ヒシモドキ、ヒンジモなど） ＜基準6＞ ・タンチョウの1%基準クリア（十勝川下流域湖沼群） ・亜種オオヒシクイ、ハクガンの1%基準クリア（三日月沼）	・「河跡湖」とは、蛇行河川の一部が河道から断たれて生じた湖
16	37	朱鞠内湖及びその上流域	北海道雨竜郡幌加内町													●																＜基準2＞ ・イトウの生息地	・朱鞠内湖は人造湖
17	39	大雪山系トムラウシ山周辺湿原群 （高根ヶ原、忠別沼、五色ケ原、沼ノ原、沼の平、ヒサゴ沼、銀杏が原湿原、トムラウシ南麓湿原など）	北海道上川郡新得町・上川町・美瑛町	●																												＜基準1＞ ・生物地理区（日本・満州）を代表する湿原	
18	43	かなやま湖及びその上流域	北海道空知郡南富良野町													●																＜基準2＞ ・イトウの生息地	・かなやま湖は人造湖
19	46	旧長都沼及び周辺水田	北海道夕張郡長沼町、千歳市																								●	●				＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（旧長都沼） ＜基準6＞ ・オオハクチョウ、マガン、亜種オオヒシクイの1%基準クリア（旧長都沼）	
20	58	大沼	北海道亀田郡七飯町			●																										＜基準1＞ ・生物地理区（東アジア）を代表する湖沼	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
21	60	函館周辺海域	北海道函館市、北斗市、上磯郡木古内町・知内町、松前郡福島町																								●				＜基準6＞ ・コクガンの1%基準クリア(函館周辺海域・出来澗崎～志海苔)	
22	62	下北半島大間崎周辺沿岸	青森県下北郡大間町・佐井村								●																				＜基準1＞ ・生物地理区(北東本州)を代表する藻場	
23	63	下北半島沿岸北部	青森県下北郡東通村、むつ市																								●				＜基準6＞ ・コクガンの1%基準クリア(下北半島沿岸北部)	
24	64	小川原湖湖沼群 （尾駮沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、高瀬川、小川原湖など）	青森県上北郡東北町・六ヶ所村、三沢市			●																					●				＜基準1＞ ・生物地理区(東アジア)を代表する湖沼 ＜基準6＞ ・オオハクチョウ、オナガガモ、スズガモの1%基準クリア(小川原湖)	・二枚貝タカホコシラトリは本地域にのみ生息
25	66	陸奥湾南部 （野辺地湾、青森湾東岸、小湊浅所海岸、原別海岸）	青森県青森市、上北郡野辺地町、東津軽郡平内町																								●				＜基準6＞ ・オオハクチョウ、コクガンの1%基準クリア(陸奥湾南部)	
26	66	陸奥湾北部 （大湊湾）	青森県むつ市								●													●			●				＜基準1＞ ・生物地理区(北東本州)を代表する干潟 ＜基準3＞ ・干潟面積は陸奥湾内では最大規模。底生生物のいくつかの種において分布北限や隔離個体群となっている他、全体的に底生生物の種の多様性が高い ＜基準6＞ ・コクガンの1%基準クリア(陸奥湾北部)	
27	69	十三湖及び岩木川河口域	青森県北津軽郡中泊町、五所川原市、つがる市			●				●																					＜基準1＞ ・生物地理区(日本海)を代表する湖沼、河口域	・河口域には広大なヨシ原が存在し、オオセッカの繁殖地となっている。また、十三湖は浅い汽水湖として特異的 ・マルタウグイの地方変異型ジュウサンウグイの分布
28	70	屏風山湿原池沼群 （平滝沼、ベンセ沼湿原、コケヤチ湿原、屏風山湿原など）	青森県つがる市	●																			●								＜基準1＞ ・生物地理区(東アジア)を代表する湿原 ＜基準3＞ ・ゲンゴロウ類を始めとした水生甲虫の絶滅危惧種が集中分布している	
29	72	八甲田山湿原群 （田代平湿原、睡蓮沼、八甲田山高層湿原・雪田草原、黄瀬沼周辺、蔦沼周辺）	青森県青森市、十和田市、平川市	●																											＜基準1＞ ・生物地理区(東アジア)を代表する湿原	
30	75	八幡平周辺湿原群 （八幡平湖沼群、八幡沼、ガマ沼、蓬莱沼、黒谷地、御在所湿原、赤川源流域湿原、八幡平湿原、黒谷地、夜沼、蒸ノ湯大谷地、長沼、大沼、大場谷地、熊谷地、前谷地など）	岩手県八幡平市、秋田県鹿角市、仙北市	●														●					●								＜基準1＞ ・生物地理区(東アジア)を代表する湿原 ＜基準3＞ ・貧栄養水域性の水生植物や周極要素の水生植物(ハリナズナなど)が隔離分布する場として重要 ・冷涼な気候の影響を受け、日本では唯一アラスカやカムチャツカ等に生息するオオメミズムシが生息する他、チシマミズムシ等の北方系の昆虫が生息	・「周極要素」とは、北半球の高緯度地域に広くみられる植物
31	80	陸中リアス海岸の湾奥沿岸湿地群 （山田湾、船越湾、大槌湾、宮古湾、釜石湾など）	岩手県宮古市、下閉伊郡山田町、上閉伊郡大槌町、釜石市など																	●											＜基準3＞ ・世界一草丈の長くなるタチアマモ、南限と思われるオオアマモが分布	・内湾の海草藻場から外洋に面した海藻藻場まで生態系が連続的に変化
32	84	志津川湾	宮城県本吉郡南三陸町																●												＜基準3＞ ・寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な海藻藻場として貴重である。アラメ群落の北限に近い	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
33	85	万石浦（マンゴクウラ）	宮城県石巻市、牡鹿郡女川町（オシカ　オナガワ）								●														●							＜基準1＞ ・生物地理区（北東本州）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・岸辺に植生帯は少ないものの、干潟に多くの底生生物が生息し、ウミニナ、カワアイ、ツブカワザンショウなどの貝類の他スジホシムシも比較的多く見られる。通水路に近いアサリ漁場での底生生物の種の多様性が高い	
34	86	松島湾	宮城県東松島市、宮城郡松島町・利府町（リフ）・七ヶ浜町（シチガハマ）、塩竈市（シオガマ）									●													●							＜基準1＞ ・生物地理区（北東本州）を代表する藻場 ＜基準3＞ ・内湾の多島海で様々なタイプの干潟が散在する。貝類では、関東以北はここだけにイボウミニナが生息し、クビキレガイモドキも数カ所で確認された。全体として底生生物の種の多様性が高い	
35	92	北上川（追波（オッパ）湾）河口域及び長面浦（ナガツラウラ）	宮城県石巻市							●	●						●										●					＜基準1＞ ・生物地理区（北東本州）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボの生息地 ＜基準6＞ ・コクガンの1%基準クリア（北上川河口域）	・河口域に広大なヨシ原が保持されており、原風景をとどめている
36		阿武隈（アブクマ）川河口域	宮城県岩沼（イワヌマ）市、亘理（ワタリ）郡亘理（ワタリ）町							●																						＜基準1＞ ・生物地理区（北東本州）を代表する河口域	
37	95	小友（オトモ）沼	秋田県能代（ノシロ）市																								●	●				＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（小友沼） ＜基準6＞ ・マガンの1%基準クリア（小友沼）	
38	96	男鹿（オガ）半島沿岸	秋田県男鹿（オガ）市									●																				＜基準1＞ ・生物地理区（日本海）を代表する藻場	
39	97	大潟村（オオガタムラ）干拓地	秋田県南秋田郡大潟村（オオガタムラ）																									●				＜基準6＞ ・ヒシクイの1%基準クリア（大潟村干拓地）	
40	107	鳥海山（チョウカイサン）湿原群 （竜ヶ原湿原、稲倉岳北面雪田、鳥海山雪田群、御浜扇子森（オハマセンスモリ）雪田群、千畳ヶ原（センジョウガハラ）、荒神岳（コウジンダケ）北面、心字（シンジ）雪田群、飯ヶ森（イイガモリ）湿原、河原宿（カワラジュク）湿原、大清水湿原など）	秋田県にかほ市、由利本荘（ユリホンジョウ）市、山形県飽海郡（アクミ）遊佐（ユザ）町、酒田市	●																												＜基準1＞ ・生物地理区（東アジア）を代表する湿原	
41	109	最上（モガミ）川河口域	山形県酒田市							●																	●	●				＜基準1＞ ・生物地理区（日本海）を代表する河口域 ＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（最上川ー河口ー両羽橋付近） ＜基準6＞ ・オオハクチョウ、オナガガモ、コハクチョウの1%基準クリア（最上川ー河口ー両羽橋付近）	・カワヤツメ、サクラマス、日本海型イトヨなどの遡上路として重要。ウケクチウグイの生息地
42	118	松川浦	福島県相馬（ソウマ）市								●						●								●							＜基準1＞ ・生物地理区（北東本州）を代表する干潟 ＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボの生息地 ＜基準3＞ ・仙台湾沿岸域では最も底生生物の種の多様性が高い。貝類では、カワアイ、ヨシダカワザンショウなどの他、未記載種のマツカワウラカワザンショウが多産する。他では少なくなった、ツバサゴカイ（多毛類）、ユムシ（ユムシ類）、スジホシムシが生息する	・松川浦の周辺のヨシ原もヒヌマイトトンボやネアカヨシヤンマの生息域になっており重要

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
43		高野池	福島県岩瀬郡鏡石町																								●				＜基準6＞ ・オオハクチョウ、オナガガモの1%基準クリア（高野池）	
44	120	裏磐梯湖沼群	福島県耶麻郡猪苗代町・北塩原村			●																									＜基準1＞ ・生物地理区（東アジア）を代表する湖沼	
45	121	猪苗代湖	福島県郡山市、会津若松市、耶麻郡猪苗代町			●																					●				＜基準1＞ ・生物地理区（東アジア）を代表する湖沼 ＜基準6＞ ・コハクチョウの1%基準クリア（小磯、志田浜、白鳥ヶ浜、烏帽子、三城潟浜、高橋川入口、蟹沢浜、長浜、崎川浜、中田浜、小石ヶ浜、笹山原、小黒川河口、山潟の合計）	
46	129	涸沼	茨城県東茨城郡茨城町・大洗町、鉾田市														●										●				＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボの生息地 ＜基準6＞ ・スズガモの1%基準クリア（涸沼）	・涸沼ニシンの生息地
47	130	霞ケ浦及び北浦	茨城県小美玉市、石岡市、かすみがうら市、土浦市、稲敷郡阿見町・美浦村、行方市、稲敷市、鉾田市、鹿嶋市、潮来市、神栖市																							●	●				＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（霞ケ浦） ＜基準6＞ ・ヨシガモの1%基準クリア（霞ヶ浦、北浦）	・希少な淡水魚の種の多様性が高い
48	131	利根川下流域 （神栖市高浜及び周辺水田など）	茨城県神栖市、千葉県香取市、香取郡東庄町、銚子市																			●					●				＜基準3＞ ・遡河性魚類（サケ、太平洋型イトヨ、カワヤツメ）の南限 ＜基準6＞ ・チュウシャクシギの1%基準クリア（神栖市高浜）	・「遡河性」とは産卵のために河川に遡上すること
49	136	渡良瀬遊水地	栃木県小山市、栃木市、下都賀郡野木町、群馬県邑楽郡板倉町、埼玉県加須市、茨城県古河市	●														●													＜基準1＞ ・生物地理区（日本）を代表する湿原 ＜基準3＞ ・本州最大級のヨシを主体とする湿性草地が存在する ・河川の氾濫原を主な生育環境とするトネハナヤスリ、タチスミレなどをはじめとする環境省レッドリスト掲載種約50種を含む700種以上の豊富な植物種が生育する湿地で、本州以南の低湿地の代表例	・大規模なチュウヒ（鳥類）の越冬地、ツバメのねぐら
50	157	九十九里浜 （新川～堀川）	千葉県匝瑳市																								●				＜基準6＞ ・ミユビシギの1%基準クリア（新川～堀川）	
51	159		富津地先沿岸 千葉県富津市																	●											＜基準3＞ ・中央黒潮エリア内で最大規模の内湾的環境下に存在する海草藻場である。東京湾に残存した海草藻場は生物の移出入を介して生物多様性の維持に貢献している。特に、富津地先沿岸は東京湾最大の海草藻場（アマモ・コアマモ）があり、湾全体の生物多様性の維持に重要である可能性が高い	
52	159		葛西海浜公園及び周辺海域 東京都江戸川区																							●	●				＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（葛西海浜公園） ＜基準6＞ ・スズガモ、カンムリカイツブリの1%基準クリア（南葛西（旧三枚州））	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
53	159	東京湾の干潟・浅瀬	三番瀬（サンバンゼ）	千葉県浦安市、船橋市、市川市、習志野市								●															●	●		●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（三番瀬） ＜基準6＞ ・ミヤコドリ、ミユビシギ、スズガモの1%基準クリア（三番瀬） ＜基準8＞ ・江戸川放水路も含めた範囲がトビハゼの北限等として重要な生息地	
54	159		小櫃川（オビツ）河口域及び盤洲（バンズ）干潟	千葉県木更津（キサラヅ）市								●													●					●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・東京湾がかつてもっていた湾奥部の干潟環境を今に残す唯一の地域であり、ここを分布の北限とする干潟生物も多い点で、その存在意義は大きい。東京湾内では最も多くの底生生物が生息しており、自然環境も比較的良く保存されている。クシテガニ、ウモレベンケイガニなど十脚類（甲殻類）の種の多様性も高い ＜基準8＞ ・流入河川の河口干潟にはトビハゼ、エドハゼ、チクゼンハゼ、マサゴハゼも生息	
55	160	北総地域の谷津田、水路及び湧水地		千葉県印西（インザイ）市、佐倉（サクラ）市、千葉市																										●		＜基準8＞ ・都市部近郊であるが、淡水魚の種の多様性が高い。タナゴ、ヤリタナゴ、スナヤツメ、ホトケドジョウ、ギバチなどが生息	
56	163	房総丘陵の谷津田、河川及び湧水地		千葉県君津（キミツ）市、市原市、夷隅（イスミ）郡大多喜町、勝浦市など												●	●						●	●									＜基準2＞ ・トウキョウサンショウウオ、ミヤコタナゴの生息地 ＜基準3＞ ・ミヤコタナゴ、ギンブナ、ホトケドジョウ、ギバチなどの絶滅危惧種が生息し、淡水魚の種の多様性が高い ・トウキョウサンショウウオをはじめ、両生類の種の多様性が高い	
57	164	一宮川及び夷隅（イスミ）川河口域		千葉県長生（チョウセイ）郡長生（チョウセイ）村・一宮町、いすみ市							●	●																●				＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準6＞ ・ミユビシギの1%基準クリア（一宮川河口）	
58	168	多摩丘陵地帯の湧水地		東京都青梅（オウメ）市、西多摩郡日の出町、あきる野市、八王子市												●							●										＜基準2＞ ・トウキョウサンショウウオの生息地 ＜基準3＞ ・トウキョウサンショウウオをはじめ、両生類の種の多様性が高い	
59	171	父島及び母島の河川		東京都小笠原村																				●						●	●	＜基準3・7・8＞ ・オガサワラヨシノボリの主要産地。本種は、海洋島の固有淡水魚としては、日本唯一 ・オガサワラカワニナ（貝類）、オガサワラヌマエビ（甲殻類）などの固有種も生息	
60	172	小笠原群島の砂浜海岸及び周辺浅海域		東京都小笠原村										●													●					＜基準1＞ ・生物地理区（小笠原諸島）を代表するサンゴ礁 ＜基準4＞ ・アオウミガメの国内最大の産卵地で、一定規模の産卵地では北太平洋で北限	
61	178	苗場（ナエバ）山周辺湿原 （苗場（ナエバ）山湿原、小松原湿原など）		新潟県中魚沼郡津南町、十日町市、南魚沼郡湯沢町、長野県下水内（シモミノチ）郡栄村	●																											＜基準1＞ ・生物地理区（東アジア、日本）を代表する湿原	
62	187	朝日池		新潟県上越市																								●				＜基準6＞ ・マガン、亜種オオヒシクイ、ハクガンの1%基準クリア（朝日池）	
63	188	鳥屋（トヤ）野潟		新潟県新潟市																								●				＜基準6＞ ・コハクチョウの1%基準クリア（鳥屋野潟）	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1										基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
64	189	福島潟	新潟県新潟市																									●				＜基準6＞ ・コハクチョウ、亜種オオヒシクイ、コガモの1%基準クリア（福島潟）	・カワヤツメ、サクラマス、日本海型イトヨなどの河川遡上路として重要。ウケクチウグイの生息地
65	203	立山周辺湿原群 （弥陀ヶ原湿原、五色ヶ原、大日平湿原など）	富山県富山市、中新川郡立山町	●																												＜基準1＞ ・生物地理区（日本）を代表する湿原	
66	205	富山県氷見の河川及びため池群 （宮田地区ため池群、十二町潟周辺の河川及び湖沼）	富山県氷見市													●																＜基準2＞ ・イタセンパラの生息地	
67	206	能登半島丘陵地のホクリクサンショウウオ生息地	石川県輪島市、珠洲市、七尾市、羽咋市、かほく市、鳳珠郡穴水町・能登町、鹿島郡中能登町、羽咋郡志賀町・宝達志水町、富山県南砺市、高岡市、射水市、富山市、小矢部市												●																	＜基準2＞ ・ホクリクサンショウウオの生息地	
68	207	七尾湾	石川県七尾市、鳳珠郡穴水町									●								●												＜基準1＞ ・生物地理区（日本海）を代表する藻場 ＜基準3＞ ・日本海内湾の大規模な海草藻場（日本海では数少ない内湾性環境）。スゲアマモの分布最南端。ウミヒルモの分布北限	
69	208	能登半島西海岸及び湖沼群 （河北潟、高松～河北海岸及び邑知潟）	石川県かほく市、河北郡津幡町・内灘町、金沢市、羽咋市、羽咋郡宝達志水町																									●				＜基準6＞ ・キアシシギ、ミユビシギの1%基準クリア（高松～河北海岸）	
70		能登半島北部ため池群	石川県珠洲市、輪島市など															●					●									＜基準3＞ ・ジュンサイ、フトヒルムシロなど、ため池に生息する水生植物の種の多様性が高い ・水生昆虫の種の多様性が高い	
71	217	越前市のアベサンショウウオ生息地	福井県越前市												●																	＜基準2＞ ・アベサンショウウオの生息地	・現在国内で知られているアベサンショウウオの最大の生息地 ・水生昆虫の重要な生息地
72	219	坂井平野	福井県坂井市、あわら市																									●				＜基準6＞ ・マガンの1%基準クリア（坂井平野）	
73	220	中池見湿地	福井県敦賀市															●														＜基準3＞ ・オオアカウキクサ、サンショウモなどの水田耕作と結びついた多くの希少な水生植物が生育している ・攪乱依存種のみでなく、湧水に生育する湿性植物が混在し、植物の種の多様性が高い	・ホトケドジョウ、メダカ北日本集団、ナガブナ、アブラボテが局在
74		嶺南東部のアベサンショウウオ生息地	福井県												●																	＜基準2＞ ・アベサンショウウオの生息地	
75	229	木曽三川合流域の河川、水路及びため池群	岐阜県海津市、養老郡養老町、大垣市、瑞穂市、羽島市、各務原市、愛知県津島市、一宮市など													●						●										＜基準2＞ ・イタセンパラの生息地 ＜基準3＞ ・ウシモツゴ、デメモロコ、ハリヨなどの絶滅危惧種が生息し、淡水魚の種の多様性が高い	
76	230	長良川・木曽川水系のネコギギ生息地	岐阜県													●																＜基準2＞ ・ネコギギの生息地	
77	232	伊豆半島南東部（白浜～田牛）沿岸	静岡県下田市																●													＜基準3＞ ・大規模な海中林。コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落。マメタワラ、アラメ、カジメなどが生育 ・黒潮影響域における典型的な温帯性海中林が形成されている	・「海中林」とは、海中でコンブ・ワカメなど比較的大きな海藻が密生している所

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
78	235	伊豆半島西部沿岸		静岡県賀茂郡松崎町・西伊豆町									●																			＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する藻場	
79	241	桶ヶ谷沼及び鶴ヶ池		静岡県磐田市														●													●	＜基準2＞ ・ベッコウトンボの生息地 ＜基準9＞ ・ベッコウトンボの本州で唯一の安定的な多産地	
80	242	浜名湖		静岡県浜松市、湖西市			●														●											＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する湖沼 ＜基準3＞ ・1年生と多年生のアマモが共存する貴重な海草藻場。本州太平洋岸中部の潟湖性海草藻場の典型	
81	246	三河湾	汐川干潟	愛知県田原市、豊橋市								●													●							＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・ヒロクチカノコ、イボウミニナ、カワアイ、オカミミガイなどの貝類が生息する多様性の高い干潟で、底生生物の密度も高く、出現種数が多い	
82	246		六条潟及び周辺水田	愛知県豊橋市																											●	＜基準8＞ ・三河湾はアサリの国内最大級の生息地で、中でも六条潟は最も稚貝が多く発生する	・スズガモ等の鳥類の生息地としても重要
83	246		矢作川河口域、三河鳥羽	愛知県幡豆郡幡豆町、西尾市、碧南市																								●				＜基準6＞ ・スズガモ、ホシハジロの1%基準クリア（矢作川河口２号地、鳥羽）	
84	248	東海丘陵湧水湿地群		愛知県、岐阜県、三重県など															●													＜基準3＞ ・低温・貧栄養な湧水に涵養される小規模な湿地に、東海地方で適応進化したこの地域にしか見られない固有種を含む東海丘陵要素植物などが生育	・矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地、北山湿地など ・小規模な湿地が広範囲に点在し、どの範囲で国際的な重要性が認められるか更に検討を進める必要がある
85	249	伊勢湾流入河川の河口域 （雲出川、櫛田川、金剛川、愛宕川及び祓川の各河口域）		三重県津市、松阪市、多気郡明和町							●	●			●										●							＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・ズグロカモメの0.1%基準クリア（愛宕川～櫛田川河口） ＜基準3＞ ・海浜域の砂浜、前浜干潟から、潟湖干潟、河口干潟とすべての干潟地形がセットになって存在する点で価値が高い。多様な生息環境が保持されており、伊勢湾内では最も種の多様性が高い。貝類では、イボウミニナ、オカミミガイなどが見られる他、ヒロクチカノコやワカウラツボの報告もある。クマノエミオスジガニ（甲殻類）が記録される点も貴重である	・祓川は希少な淡水魚の種の多様性が高く、流域全体が重要 ・各地点ごとに国際的な重要性が認められるか更に検討を進める必要がある
86	251	志摩半島南部沿岸 （大王町～南島）		三重県志摩市、度会郡南伊勢町									●							●												＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する藻場 ＜基準3＞ ・サガラメ、カジメ、オオバノコギリモクなどの海中林。ナガシマモク、ヘラナラサモも生育。最大規模のネジモク群落	・マクサや1年生アマモ、ツルモも生育
87		豊津浦～町屋浦		三重県津市																								●				＜基準6＞ ・ミユビシギの1%基準クリア（豊津浦）	
88		二津野ダム湖		奈良県吉野郡十津川村																								●				＜基準6＞ ・オシドリの1%基準クリア（二津野ダム）	・人造湖 ・オシドリは、水面をねぐらとしており、周辺の採餌環境も含めて一体的な保全が必要
89	262	由良川上流域 （芦生）		京都府南丹市																											●	＜基準8＞ ・ヤマメ、アジメドジョウ、アカザ、カジカ、オヤニラミなど渓流性希少魚の種の多様性が高い	・オオサンショウウオが生息

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
90		京都府亀岡の水田地帯	京都府亀岡市																			●	●							●		＜基準3＞ ・ナゴヤダルマガエルをはじめ両生類の種の多様性が高い ・ヤリタナゴ、アブラボテ、カワヒガイなどの絶滅危惧種が生息し、淡水魚の種の多様性が高い ＜基準8＞ ・アユモドキの生息地	
91	264	丹後・但馬地方低山地湧水域のアベサンショウウオ生息地	京都府京丹後市（大宮町、峰山町、網野町）、兵庫県豊岡市（日高町）												●																	＜基準2＞ ・アベサンショウウオの生息地	
92		尼崎市臨海部	兵庫県尼崎市																									●				＜基準6＞ ・ホシハジロの1%基準クリア（尼崎市臨海部）	
93	277	北播磨地域ため池群	兵庫県加西市、加東市、神崎郡福崎町、小野市、加古川市															●														＜基準3＞ ・加西市、小野市、加東市のため池を中心に良好な水生植物群落が成立している ・マルハオモダカ、スブタ、ミズニラなど、絶滅危惧種の宝庫となっており、日本国内内で確認されている水草約200種のうちの40%がこの地域に自生している	・植物以外にも、トンボ類やゲンゴロウ類が豊富 ・現在も使用されているため池が多数あり、人の営みと生きものの関わりが、多様な生物とともに残っている
94	282	円山川下流域及び周辺水田	兵庫県豊岡市											●			●	●					●							●		＜基準2＞ ・コウノトリの生息地（円山川河辺・水田地帯） ・ヒヌマイトトンボの生息地 ＜基準3＞ ・河川の氾濫原に依存したミズアオイ等の水草相が良好な状態で残っており、円山川中洲のひのそ島や田結地区などには重要な水生植物が残っている（ヒメシロアサザ、オオアカウキクサなど） ＜基準3・8＞ ・異なる系統（サケ、イトヨ、メダカ南北集団など）からなる多様な魚類相	
95	285	和歌川河口域	和歌山県和歌山市								●														●							＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・これまでの調査で底生生物が281種、魚類58種が確認されている種の多様性の高い河口干潟。貝類ではウミニナ・ヘナタリ類などが多産し、ワカウラツボなどの絶滅危惧種も生息する他、ハクセンシオマネキ（甲殻類）の生息数は近畿地方で最大規模	
96	286	有田川河口域	和歌山県有田市																						●							＜基準3＞ ・これまでの調査で底生生物が262種、魚類56種が確認されている種の多様性の高い河口干潟。貝類では、コゲツノブエやタケノコカワニナが生息する他、干潟に棲むハゼ類も多い	
97	290	白浜～田辺湾	和歌山県田辺市、西牟婁郡白浜町																						●							＜基準3＞ ・底生生物の出現数が多く、種の多様性が高い。コゲツノブエ（貝類）、ハクセンシオマネキ（甲殻類）などのほか、潮間帯下部にはハボウキガイ（貝類）が見られる	
98	303	隠岐島（島後）の渓流域	島根県隠岐郡隠岐の島町												●															●		＜基準2＞ ・オキサンショウウオの生息地 ＜基準9＞ ・オキサンショウウオ（日本固有種）の唯一の生息地	
99	304	隠岐諸島沿岸	島根県隠岐郡隠岐の島町・海士町・知夫村・西ノ島町																●													＜基準3＞ ・ガラモ場、海中林を中心とした大規模な藻場で種の多様性が高く、藻類の絶滅危惧種も多い。クロキヅタやホソエガサ（絶滅危惧種）の生育地 ・日本海側の温帯性海藻群落として規模も大きく、種の多様性が高い	
100		能義平野	島根県安来市																									●				＜基準6＞ ・コハクチョウの1%基準クリア（能義平野）	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
101	307	岡山平野の河川及び周辺水田	岡山県など													●													●		＜基準2＞ ・スイゲンゼニタナゴの生息地 ＜基準8＞ ・アユモドキ、スイゲンゼニタナゴなどの絶滅危惧種となっている淡水魚の生息地	・ナゴヤダルマガエル、カスミサンショウウオも生息
102		児島湖及び阿部池	岡山県岡山市南区、玉野市																								●	●				＜基準5＞ ・ガンカモ類の2万羽基準クリア（児島湖・阿部池） ＜基準6＞ ・キンクロハジロ、スズガモ、ホシハジロの1%基準クリア（児島湖・阿部池）	
103	311	味野湾及び玉野湾	岡山県倉敷市、玉野市								●																					＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する藻場	
104	313	安芸湾三津口	広島県呉市																	●												＜基準3＞ ・瀬戸内海でも非常に自然度が高く残存した海草藻場	・特に生野島月ヶ浦の海草藻場は小さいながらも状態が良い
105	314	世羅台地の湧水湿地及びため池群	広島県世羅郡世羅町、東広島市															●														＜基準3＞ ・世羅西町を中心に水辺や水中に、オグラコウホネ、スブタ、ヒメタヌキモなどの絶滅危惧種を含む多様な植生が成立している ・植物地理的にも隔離分布する特異な植物相（満鮮要素）が見られる	・「満鮮要素」とは、朝鮮半島中部および北部、満州と関連した特有の植物種群
106	318	宮島 （厳島）	広島県廿日市市														●													●	＜基準2＞ ・ミヤジマトンボの生息地 ＜基準9＞ ・ミヤジマトンボの日本唯一の生息地	
107	321	秋穂湾～山口湾 （椹野川河口域を含む）	山口県山口市								●						●							●							＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボ、ベッコウトンボの生息地 ＜基準3＞ ・有明海に次いで、潮の干満差が大きい周防灘一帯の沿岸域で、有明海と同様の多様な湾奥部に分布する生物を多産する貴重な地域である。瀬戸内海を含め近隣海域の中では圧倒的に底生生物の生息種数が多い。貝類のシマヘナタリ、オカミミガイ類、センベイアワモチの他、ミドリシャミセンガイ（腕足類）、ヒガシナメクジウオ（脊索動物）も見られる	・低潮線（干潮時の海面と陸地とが接する線）付近には広大な海草藻場を擁し、塩性湿地も豊富であり、瀬戸内海の原風景を残す
108	323	厚東川及び厚狭川の河口域	山口県宇部市、山陽小野田市							●							●														＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域 ＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボ、ベッコウトンボの生息地	
109	326	油谷湾	山口県長門市、下関市								●																				＜基準1＞ ・生物地理区（日本海）を代表する干潟	
110		小野湖	山口県宇部市																									●			＜基準6＞ ・オシドリの1%基準クリア（小野湖）	・オシドリは、水面をねぐらとしており、周辺の採餌環境も含めて一体的な保全が必要
111	329	吉野川河口域	徳島県徳島市、板野郡藍住町・上板町、名西郡石井町							●	●			●									●	●						●	＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・ズグロカモメの0.1%基準クリア（吉野川下流域） ＜基準3＞ ・有明海が備え持つ湾奥部の大型干潟の特徴を、河口干潟の形態でもっており、そのため、シオマネキ（甲殻類）の生息数は、有明海以外では随一を誇る。砂質から泥質まで多様な環境が河口域に残されており、貝類のヒロクチカノコ、イボウミニナ、ヨシダカワザンショウ、クリイロコミミガイや、甲殻類のシオマネキ、ハクセンシオマネキ、フタハピンノなどが生息する。種の多様性も高い ・ハンミョウ類の重要な生息地である ＜基準8＞ ・河口域には、魚類のタビラクチやアオギスが生息	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
112	348	宇和海島嶼部周辺沿岸	愛媛県西宇和郡伊方町																●													<基準3> ・瀬戸内海側と太平洋側の海洋変動を受けやすい。多様なホンダワラ類が混成している。クロメ場、ガラモ場などと混在し、地先の生物多様性が高い	
113		鹿野川湖	愛媛県大洲市																									●			<基準6> ・オシドリの1%基準クリア（鹿野川ダム）	・人造湖 ・オシドリは、水面をねぐらとしており、周辺の採餌環境も含めて一体的な保全が必要
114	349	松山地区のオオイタサンショウウオの生息地	高知県土佐清水市												●																<基準2> ・四国で唯一のオオイタサンショウウオの生息地	
115	350	四万十川下流域	高知県四万十市							●																				●	<基準1> ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域 <基準8> ・アカメ（魚類）の生息地	
116		杉田ダム湖	高知県香美市																									●			<基準6> ・オシドリの1%基準クリア（杉田ダム）	・人造湖 ・オシドリは、水面をねぐらとしており、周辺の採餌環境も含めて一体的な保全が必要
117	359	曽根干潟	福岡県北九州市											●														●			<基準2> ・ズグロカモメの1%基準クリア（曽根干潟） <基準6> ・スズガモの1%基準クリア（中曽根） ・ズグロカモメの1%基準クリア（曽根干潟）	
118	360	筑前大島及び地ノ島周辺沿岸	福岡県宗像市									●							●												<基準1> ・生物地理区（東シナ海）を代表する藻場 <基準3> ・玄界灘には各地で大規模な藻場が見られるが、本地域が最大規模の海中林	
119	363	博多湾東部（和白干潟など）	福岡県福岡市								●			●											●			●			<基準1> ・生物地理区（東シナ海）を代表する干潟 <基準2> ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（博多湾東部（和白・多々良）） ・ズグロカモメ、ホウロクシギの0.1%基準クリア（博多湾東部（和白・多々良）） <基準3> ・日本海に面した干潟では最も底生生物の種の多様性が高い。出現種数はそれほど多くはないが、貝類のナラビオカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイが生息する <基準6> ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（博多湾東部（和白・多々良））	
120	363	今津干潟	福岡県福岡市								●			●											●			●			<基準1> ・生物地理区（東シナ海）を代表する干潟 <基準2> ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（今津干潟） ・ズグロカモメ、ホウロクシギの0.1%基準クリア（今津干潟） <基準3> ・日本海に面した干潟では底生生物の種の多様性が高い。貝類（オキシジミ、ウミニナ類）、甲殻類（ヤマトオサガニ、チゴガニ、ヒメアシハラガニ、アナジャコ等）、多毛類（ゴカイ類）が生息し多様性が高い <基準6> ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（今津干潟）	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1										基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
121	365	有明海	筑後川(チクゴ)、沖端(オキノハタ)川及び早津江(ハヤツエ)川の各河口域並びに平和溜(ガラミ)	福岡県大川市、柳川(ヤナガワ)市、佐賀県佐賀市							●	●			●		●							●		●				●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの0.1%基準クリア（早津江川河口） ・ズグロカモメ0.1%基準クリア（早津江川河口） ・アリアケヒメシラウオの生息地（筑後川感潮域） ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・多様な底生生物が生息し、大陸遺存種も多く見られる。貝類のミドリシャミセンガイ、オカミミガイ類、アリアケガニ（甲殻類）、アリアケカワゴカイ（多毛類）などが生息する ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	・「大陸遺存種」とは、日本が大陸と陸続きであった頃に分布を拡大し、今日では日本の一部地域にのみ隔離的に分布している種
122	365		矢部(ヤベ)川河口域	福岡県柳川(ヤナガワ)市、みやま市							●	●												●		●				●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	
123	365		田古里(タコリ)川河口域	佐賀県藤津郡太良(タラ)町							●	●												●		●				●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	
124	365		六角川河口域	佐賀県小城(オギ)市、杵島(キシマ)郡白石町							●	●												●		●				●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・有明海最奥部に位置する。アリアケガニ（甲殻類）、ムツゴロウ（魚類）、貝類のヒロクチカノコ、オカミミガイ類、ウミマイマイ、クロヘナタリ、シマヘナタリ等が生息し、種の多様性が高い ・大陸遺存種の湾奥部における底生生物の豊富さは他に類をみない	
125	365		東与賀海岸(ヒガシヨカ)(大授搦(ダイジュガラミ))	佐賀県佐賀市							●	●			●									●		●			●	●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・クロツラヘラサギ、ヘラシギ、カラフトアオアシシギの0.1%基準クリア（大授搦） ・ズグロカモメの1%基準クリア（大授搦） ＜基準6＞ ・ズグロカモメの1%基準クリア（大授搦） ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
126	365		鹿島新籠(シンゴモリ)海岸及び塩田川	佐賀県鹿島市、杵島(キシマ)郡白石町							●	●			●									●		●			●	●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・ズグロカモメの1%基準クリア（鹿島新籠海岸） ＜基準6＞ ・チュウシャクシギの1%基準クリア（鹿島新籠海岸） ・ズグロカモメの1%基準クリア（鹿島新籠海岸） ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の生息地及び繁殖地 ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	
127	365		荒尾海岸	熊本県荒尾市							●	●			●									●		●			●	●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する河口域、干潟 ＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの0.1%基準クリア（荒尾海岸） ・ズグロカモメの1%基準クリア（荒尾海岸） ＜基準6＞ ・ズグロカモメの1%基準クリア（荒尾海岸） ＜基準3・7・8＞ ・有明海全体として、エツ、アリアケシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸遺存種の魚類の生息地及び繁殖地 ・湾奥部における大陸遺存種の底生生物の豊富さは他に類をみない	
128	375	壱岐(イキ)島の河川及びため池群		長崎県壱岐(イキ)市													●							●									＜基準2＞ ・カゼトゲタナゴの生息地 ＜基準3＞ ・カゼトゲタナゴなどの絶滅危惧種が多く、淡水魚の種の多様性が高い	
129	378	浅茅(アソウ)湾及び綱浦		長崎県対馬(ツシマ)市														●							●								＜基準2＞ ・ヒヌマイトトンボの生息地（オス・メス同型） ＜基準3＞ ・入り江が複雑に発達しており、特異な景観を有している。絶滅危惧I類の沿岸性アメンボの一種であるシオアメンボや絶滅危惧Ⅱ類のシロウミアメンボの安定した生息地	
130	379	田ノ浜(タノハマ)		長崎県対馬(ツシマ)市																		●		●									＜基準3＞ ・地形が急峻で平地の少ない対馬において低湿地の生物相を残す場として重要で、エサキアメンボなどの水生昆虫やツシマアカガエル、チョウセンヤマアカガエルなどが生息し、ツシマヤマネコの重要な餌場にもなっている	
131	386	白川河口域		熊本県熊本市											●														●				＜基準2＞ ・クロツラヘラサギ、ズグロカモメの1%基準クリア（白川河口） ＜基準6＞ ・クロツラヘラサギ、ズグロカモメの1%基準クリア（白川河口）	
132	387	大野川、砂川、氷川及び鏡川の各河口域		熊本県宇城(ウキ)市、八代郡氷川(ヒカワ)町、八代市											●											●			●				＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（氷川、鏡川河口） ・ズグロカモメの1%基準クリア（不知火干潟、氷川） ＜基準3＞ ・大野川の河口にはヨシ原も存在し、貝類のヘナタリ類、ワカウラツボ、ウミマイマイ、ヤベカワモチやシオマネキ（甲殻類）が生息する他、有明海特産種も出現し、多様性が高い ＜基準6＞ ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（氷川、鏡川河口） ・ズグロカモメの1%基準クリア（不知火干潟、氷川）	
133	389	永浦島周辺沿岸		熊本県上天草(カミアマクサ)市																						●							＜基準3＞ ・多様な環境が存在し、近隣地域の中では出現種数が多い。ハクセンシオマネキ（甲殻類）の日本最大の生息地	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名	都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
				湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
134	390	天草灘通詞島周辺海域	熊本県天草市									●																			＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する藻場	
135	392	天草牛深沿岸 （桑島、大島及び龍仙島）	熊本県天草市										●																		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表するサンゴ礁	
136		羊角湾	熊本県天草市																					●							＜基準3＞ ・自然度が高い状態で保持されており、貝類のオカミミガイ類、ヘナタリ類、イボウミニナなどの出現種数も多い	
137	395	野依新池	大分県中津市														●													●	＜基準2＞ ・ベッコウトンボの生息地 ＜基準9＞ ・ベッコウトンボの多産地 （確実な多産地は他に桶ヶ谷沼・鶴ヶ池と藺牟田池のみ）	
138	396	中津干潟及び宇佐干潟	大分県中津市、宇佐市								●			●										●			●		●		＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表する干潟 ＜基準2＞ ・ズグロカモメの1%基準クリア（宇佐海岸） ・ズグロカモメの0.1%基準クリア（中津海岸） ＜基準3＞ ・貝類のシマヘナタリ、クロヘナタリ、オカミミガイ類、ハクセンシオマネキ（甲殻類）などが生息し、種の多様性の高い干潟。固有種も豊富 ＜基準6＞ ・ズグロカモメの1%基準クリア（宇佐海岸） ＜基準8＞ ・アオギスの国内最大の生息地	
139	404	家田湿原及び川坂湿原	宮崎県延岡市															●													＜基準3＞ ・現在希少になりつつあるオヒルムシロ、ヒメコウホネ、ヌマゼリなどの北方系の水生植物の南限で、湧水環境が豊富な植物相を支えている。また、水田雑草も豊富	
140		大淀川下流域	宮崎県宮崎市																											●	＜基準8＞ ・四万十川と並んで重要なアカメ（魚類）の生息地	
141	422	出水干拓地	鹿児島県出水市											●													●				＜基準2＞ ・ナベヅル、マナヅルの1%基準クリア（出水干拓地） ＜基準6＞ ・ナベヅル、マナヅルの1%基準クリア（出水干拓地） ・ヒドリガモの1%基準クリア（荒崎）	
142	425	鹿児島湾沿岸アマモ場群落（重富海岸、桜島漁港、浜町、鴨池港及び生見）	鹿児島県姶良市、霧島市、鹿児島市																	●											＜基準3＞ ・アマモからなる南限域の海草藻場。1年生で変動が激しいため、広域での指定が必要	
143	428	万之瀬川河口域及び吹上浜海岸	鹿児島県南さつま市、日置市											●													●				＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（万之瀬川河口、吹上浜海岸） ＜基準6＞ ・クロツラヘラサギの1%基準クリア（万之瀬川河口、吹上浜海岸）	
144	431	種子島のマングローブ林 （湊川及び大浦川）	鹿児島県西之表市、熊毛郡中種子町・南種子町						●												●										＜基準1＞ ・生物地理区（中央黒潮）を代表するマングローブ湿地 ＜基準3＞ ・メヒルギ林が発達し、自然分布北限の可能性が有る ・ラグーン内に樹高1mにも達しないメヒルギ群落が広く生育する群生は日本で唯一で、世界的に見ても稀	
145	438	海鼠池及び貝池	鹿児島県薩摩川内市																●												＜基準3＞ ・海鼠池は、マメタワラ類似種が生育するとされ、陸封湖に生育する天然海藻群落として希少性が高い	・「陸封湖」は、地形的に海から切り離された湖沼 ・海鼠池と貝池は接続している

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1									基準2				基準3																選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物	基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9		
146	439	奄美大島	南部山地水域	鹿児島県奄美市、大島郡大和村・宇検村・瀬戸内町												●							●		●									＜基準2＞ ・イシカワガエル、オットンガエル、イボイモリ、アマミハナサキガエルなど多くの固有種の生息地 ＜基準3＞ ・エグリタマミズムシなどの固有の水棲昆虫が多いだけでなく、アマミハナサキガエル、イシカワガエルなどの固有な両生は虫類も多種が生息している	・山地の渓流域と止水域 ・役勝川、住用川、川内川を除く地域
147	440		役勝川、住用川及び河口域	鹿児島県奄美市、大島郡大和村・宇検村・瀬戸内町																		●	●	●	●					●	●			＜基準3＞ ・マングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地で、発達したメヒルギ林（琉球諸島で最も良好な林分を形成）からなる良好なマングローブ生態系を形成 ・エグリタマミズムシなどの固有の水棲昆虫が多いだけでなく、アマミハナサキガエル、イシカワガエルなどの固有な両生は虫類も多種が生息している。中流域・下流域まで含めて重要 ＜基準3・7・8＞ ・キバラヨシノボリ、放流個体を除けば奄美大島のみに生息するリュウキュウアユの生息地。河口域にはマングローブ林が広がり、希少ハゼ科魚類も生息	
148			川内川及び内海	鹿児島県奄美市、大島郡大和村																		●	●	●	●					●	●			＜基準3＞ ・内海は塩湖に成立するマングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地 ・エグリタマミズムシなどの固有の水棲昆虫が多いだけでなく、アマミハナサキガエル、イシカワガエルなどの固有な両生は虫類も多種が生息している。中流域・下流域まで含めて重要 ＜基準3・7・8＞ ・キバラヨシノボリ、放流個体を除けば奄美大島のみに生息するリュウキュウアユの生息地。河口域にはマングローブ林が広がり、希少ハゼ科魚類も生息	
149	444	徳之島山地水域		鹿児島県大島郡徳之島町・天城町・伊仙町												●																		＜基準2＞ ・イボイモリ、アマミハナサキガエルなどの日本固有種の重要な生息地	・山地の渓流域と止水域
150	464	瀬底島の湿地		沖縄県国頭郡本部町												●																		＜基準2＞ ・イボイモリの生息地	
151	448	ヤンバル河川群		沖縄県国頭郡国頭村・大宜味村・東村、名護市												●		●					●	●						●	●			＜基準2＞ ・イシカワガエル、ホルストガエル、ナミエガエル、イボイモリ、ハナサキガエルの生息地 ・オキナワミナミヤンマの生息地 ＜基準3＞ ・ナミエガエル、ハナサキガエル、イシカワガエル、ホルストガエルなどの日本固有種を含む両生は虫類にとって重要な生息地 ＜基準3・7・8＞ ・キバラヨシノボリ、アオバラヨシノボリ、アヤヨシノボリ、ヒラヨシノボリなどヨシノボリ類固有種が生息。汀間川河口のマングローブ林には、多様な魚類が生息	・魚類の観点からは轟川、源河川、汀間川などが重要 ・昆虫の観点からは大保川、与那川、源河川、平南川、比地川、奥川などが重要
152	451	慶佐次川		沖縄県国頭郡東村																		●												＜基準3＞ ・慶佐次マングローブ林はメヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギからなるマングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地	
153	453	大浦川及び河口域		沖縄県名護市																		●		●						●	●			＜基準3＞ ・メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギからなるマングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地 ＜基準3・7・8＞ ・河口にはマングローブ林が発達し、マングローブ性魚類の種の多様性が高い	
154	454	羽地内海（屋我地など）		沖縄県名護市、国頭郡今帰仁村								●										●				●								＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表する干潟 ＜基準3＞ ・大規模な内湾で、底生生物相も多様で豊富。特に貝類は種数、個体数ともに多く、腹足類では未記載種も多く出現する ・メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシのマングローブ樹種の生育地で、本島最大のオヒルギ林	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1										基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
155	459	中城湾北部（泡瀬～川田～勝連町南原～北中城村～中城村）		沖縄県うるま市、沖縄市、中頭郡北中城村、中城村								●			●					●				●		●			●					＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表する干潟 ＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの0.1%基準クリア（泡瀬干潟） ＜基準3＞ ・泡瀬干潟には海藻のクビレミドロ(絶滅危惧種）が生育。イソスギナも生育 ・泡瀬干潟は貝類の種数や現存量が大きく、多くの絶滅危惧種が見られる ・本地域に生息するトビハゼ、トカゲハゼ、シオマネキは極めて貴重 ＜基準6＞ ・ムナグロの1%基準クリア（泡瀬干潟）	
156	469	渡嘉敷島の山地水域		沖縄県島尻郡渡嘉敷村												●																	＜基準2＞ ・ホルストガエル、イボイモリの生息地	・山地の渓流域と止水域
157	472	八重干瀬		沖縄県宮古島市										●																			＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表するサンゴ礁 （南北10km、大小100前後の礁からなる大規模な離礁群）	
158	479	与那覇湾及びその周辺		沖縄県宮古島市									●																●				＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表する藻場 ＜基準6＞ ・メダイチドリの1%基準クリア（与那覇湾）	
159	484	石垣島	川平湾～米原地先沿岸	沖縄県石垣市								●		●						●													＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表する干潟、サンゴ礁 ＜基準3＞ ・ホンダワラ属、シマテングサ、カタメンキリンサイ、リュウキュウオゴノリ（絶滅危惧種）など海藻類の生育地	・サンゴ礁から岩礁海岸、砂浜、砂泥底、海草藻場、マングローブと多様な環境が揃っている、生態系の多様性の高い地域 ・ナタマメケボリ（ユムシ類の生息する穴に同居）やヒノマルズキン（ナマコの一種上の共生）など特異な生態を持つ貝類も確認されている
160	487		於茂登岳の渓流及び湿地	沖縄県石垣市																			●										＜基準3＞ ・コガタハナサキガエル、オオハナサキガエルなどの日本固有種を含む両生は虫類にとって重要な生息地	
161	487		名蔵湾	沖縄県石垣市									●							●													＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表する藻場 ＜基準3＞ 海藻群落は熱帯性海藻で構成されており、沖縄本島とも異なる。リュウキュウオゴノリ（絶滅危惧種）も生育。海草のウミショウブも生育	・マングローブ、干潟、海草藻場、海藻藻場、サンゴ礁リーフの全てが見られ、かつ連続する「熱帯性湿地」として日本で唯一で、この規模として最も高緯度
162	488		宮良湾	沖縄県石垣市						●		●														●							＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表するマングローブ湿地、干潟 ＜基準3＞ ・前浜干潟の他、河口部には天然記念物のマングローブ林が存在する。オキナワアナジャコ（甲殻類）、貝類のキバアマガイ、オカミミガイ類など多種類の底生生物が生息する	
163	489		白保海岸及びその沿岸	沖縄県石垣市										●	●																		＜基準1＞ 生物地理区（南黒潮）を代表するサンゴ礁 （北半球で最大級とされる大規模なアオサンゴ群落） ＜基準2＞ ・クロツラヘラサギの0.1%基準クリア（白保－宮良湾）	
164	490	石西礁湖（鳩間島沿岸を含む）		沖縄県八重山郡竹富町										●													●						＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表するサンゴ礁 ＜基準4＞ ・アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種の産卵地。西部太平洋におけるアオウミガメ、タイマイの幼体の主要な索餌・生育海域	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1									基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
165	491	西表島	山地水域	沖縄県八重山郡竹富町												●							●	●	●					●	●		＜基準2＞ ・コガタハナサキガエル、ヤエヤマハラブチガエルの生息地 ＜基準3＞ ・八重山諸島固有の水生昆虫類が豊富に生息している。渓流性及び湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である ・両生類も八重山固有種が豊富 ＜基準3・7・8＞ ・西表島の河川からは400種をこえる魚類が確認されており、種の多様性がきわめて高い。また、絶滅危惧種の汽水・淡水魚は51種が分布し、魚類相の希少性も高い	・山地の渓流域と止水域
166	493		仲間川及び河口域	沖縄県八重山郡竹富町		●				●	●	●									●		●	●					●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（琉球諸島）を代表する自然度の高い河川 ・生物地理区（南黒潮）を代表するマングローブ湿地、河口域、干潟 ＜基準3＞ ・メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤプシキの生育地。マングローブ林の国内最大の分布値で、マングローブ樹種数も多い ・八重山諸島固有の水棲昆虫類が豊富に生息している。渓流性及び湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である ＜基準3・7・8＞ ・西表島の河川からは400種をこえる魚類が確認されており、種の多様性がきわめて高い。また、絶滅危惧種の汽水・淡水魚は51種が分布し、魚類相の希少性も高い	
167	494		後良川、相良川及び前良川河口域	沖縄県八重山郡竹富町						●		●									●				●							＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表するマングローブ湿地、干潟 ＜基準3＞ ・メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギモドキ、ヒルギダマシ、マヤブシキからなるマングローブ湿地と河口から前浜に至る広大な干潟では、特に、シオマネキ類やオサガニ類の種の多様性が高い	
168	497		船浦湾流入河川河口域	沖縄県八重山郡竹富町						●		●									●				●							＜基準1＞ ・生物地理区（南黒潮）を代表するマングローブ湿地、干潟 ＜基準3＞ ・メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギモドキ、ヒルギダマシ、ニッパヤシからなるマングローブ林、砂質干潟、海草藻場がいずれも広大で、それぞれに特有の底生生物が出現する、種及び生態系の多様性の高い地域	
169	498		浦内川及び河口域	沖縄県八重山郡竹富町		●				●	●	●									●		●	●	●				●	●		＜基準1＞ ・生物地理区（琉球諸島）を代表する自然度の高い河川 ・生物地理区（南黒潮）を代表するマングローブ湿地、河口域、干潟 ＜基準3＞ ・マングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地 ・八重山諸島固有の水棲昆虫類が豊富に生息している。渓流性および湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である ＜基準3・7・8＞ ・西表島の河川からは400種をこえる魚類が確認されており、種の多様性がきわめて高い。また、絶滅危惧種の汽水・淡水魚は51種が分布し、魚類相の希少性も高い。なかでも浦内川は魚種数、絶滅危惧種数ともに最多 ・広大な河口域にマングローブ林が存在し、魚類の種の多様性が高い。貝類のﾄｳﾄﾞｳﾏﾘﾊﾏｸﾞﾘ、キヌメハマシイノミ、コハクオカミミガイなどが産する	・干潟、マングローブ林、河川、海岸、陸上生態系が連続し、生態系の多様性が高い ・マングローブ林の後背湿地林、サキシマスオウノキ、サガリバナなど貴重な分布地
170			大見謝川	沖縄県八重山郡竹富町																			●	●					●	●		＜基準3＞ ・八重山諸島固有の水棲昆虫類が豊富に生息している。渓流性および湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である ＜基準3・7・8＞ ・河川上流域の環境が河口まで続き、渓流性ハゼ科魚類が生息する ・西表島の河川からは400種をこえる魚類が確認されており、種の多様性がきわめて高い。また、絶滅危惧種の汽水・淡水魚は51種が分布し、魚類相の希少性も高い	

湿地番号	重要湿地500番号	湿地名		都道府県市町村	基準1										基準2				基準3								基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	選定理由	その他特記事項
					湿原	河川	湖沼	地下水系	塩性湿地	マングローブ湿地	河口域	干潟	藻場	サンゴ礁	鳥類	両生類	魚類	昆虫類	植物	海藻	海草	マングローブ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生生物								
171	499		崎山湾、網取湾の湾奥部	沖縄県八重山郡竹富町																	●												＜基準3＞ ・自然度の高い熱帯性海草藻場。ウミショウブの純群落	・崎山湾には大規模なアザミサンゴ群体が分布
172	499		鹿川湾～南風見	沖縄県八重山郡竹富町																							●						＜基準4＞ ・南西諸島で最も高密度にアオウミガメが産卵する砂浜を有する	・後背地の自然も健全な状態に保たれ、陸域から海域への連続した自然は貴重である

※1　潜在候補地の区域や名称については必要に応じて再度精査する

※2　重要湿地500とは、平成13年に環境省が日本全国から500箇所選定した我が国における保全上重要な湿地

※3　「河口域」は河川の汽水域を示し、「下流域」は河川の汽水域だけでなく淡水域も含めたより広範な流域を示す

※4　ヒシクイについては、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイに分けられるが、亜種オオヒシクイのみを示す場合に「亜種オオヒシクイ」とし、亜種の区別がない場合を「ヒシクイ」と表記した

※5　下記の湿地については、それぞれ下記に掲げた理由により今回のリストには掲載されておらず、今後の推移を踏まえてリスト掲載を検討する必要がある

・「新舞子海岸」「ハチの干潟」「天仁屋岬～金武部岬に至る海草藻場」「表浜（伊良湖岬から浜名湖今切口）」などについては、最近の知見では国際基準を満たしている事が認められなかった

・「知床半島の河川」については、孵化場魚も混じりサケ・マスが遺伝的に自然由来とは限らず、種数・個体数も他河川と比較して特に多くないことなどから、国際基準を満たしている事が認められなかった

・「標津湿原」については、最近の知見ではイトウの生息環境に関する国際的な観点からの評価が困難であった

・「迫川（若柳地区）」、「玉川（鶯野付近）」、「北新保大池」及び「日野川」については、国際基準6を満たすものの、餌付けによる定着の影響が考えられる

・「大田原市の湧水湿地」については、安定的な魚類の生息環境が限られている

・「諏訪湖」については、今後のメガネサナエの生息状況を踏まえる必要があり、また、国際基準6を満たすものの、漁業資源による定着の影響が考えられる

・「八代」と「伊万里干拓地（長浜干拓地）」については、現時点での越冬個体数は少なく、今後のツル類の越冬状況を踏まえる必要がある

・「九州中央山地源流域のベッコウサンショウウオ生息地」及び「宮崎市湧水地帯のオオイタサンショウウオ生息地」については、本種の生息範囲が広く、特に重要な地点を限定する事が困難であった

・「加茂川河口域」「津屋埼干潟」「雷山川河口域」「球磨川河口域」「天降川河口域」「別府川」「具志干潟～大嶺岬及び周辺沿岸」「与根干潟・豊崎干潟」については、クロツラヘラサギ又はズグロカモメの個体群を安定的に支えているか今後の推移を見守る必要がある

・「中城湾南部（与那原海岸～佐敷）」については、最近の知見では国際的な基準を満たしている事が認められなかった

※6　複数の湿地群の存在する地域として掲載されている「東京湾」「有明海」「奄美大島」「西表島」などについては、特に国際的な重要性を説明できる湿地に限定して抽出しているが、地域全体の中で他に潜在候補地となる湿地がないか更に検討を加える必要がある